

毎月22日は「人権を確かめ合う日」です

人権のひろば

☎ 高齢福祉課

(TEL) 354-8170 (FAX) 354-8280

認知症の人を支える家族の皆さんへ

誰もがなり得る認知症。進行に個人差はありますが、これまでとのギャップに本人と家族は戸惑うかもしれません。お互いの不安に寄り添い、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けるため、本市では、三つの「安心」で構成された「みまもり支援事業」を実施しています。

一つ目が、「安心おかえりシール」です。衣服や所持品などにシール型の二次元コードを貼り、道に迷って保護された際に読み取ってもらうと家族に連絡が届きます。

二つ目が、「あんしんGPS」です。緊急時に、



安心おかえりシール

本人の居場所をスマホアプリで確認できます。給付のため、紛失や故障の際に弁償の必要はありません。

三つ目が、「あんしん保険」です。線路に立ち入って電車を止めた場合など、賠償責任が生じた際の補償をします。

すべて無料で利用可能です。詳しくは、シール画像内の二次元コードを読み取り、市ホームページをご覧ください。か、高齢福祉課や各地区の在宅介護支援センターへ気軽に相談ください。



四日市空襲から80年

6月18日に、鵜の森公園で、四日市空襲犠牲者慰霊献花式を挙行了しました。昭和20年6月18日、本市は米軍による空襲を受け、以降、同年8月8日まで、計9回に及ぶ空襲の中で、当時の市民約13万人のうち、800人以上の尊い命が失われ、被災者は49,198人に達しました。

献花式当日は、梅雨とは思えないほど澄み渡る空の下、出席の市民、村山議長と共に、哀悼の誠を捧げ、「世界では今も戦いが続いているが、戦争の惨禍を繰り返さないため、戦争の記憶と平和への願いを継承していく」という思いを改めて述べました。



毎年参列されていた人がお亡くなりになるなど、戦後80年を迎え、私も含め戦争を知らない世代が大半となる中、市立博物館では、8月31日まで、学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」を開催しています。特にこどもたちに、当時の暮らしの様子を通して、今一度、戦争の悲惨さを学び、平和の尊さを心に刻んでいただければと思います。



建立から45年を迎える殉難碑